

武蔵野市の将来を考える市民会議(第1回) 議事録

日時：平成22年7月26日(月)午後7時～9時10分

場所：かたらいの道・市民スペース

次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 委員自己紹介
5. 事務局紹介
6. 議事
 - (1) 趣旨等
 - 1) 第五期基本構想・長期計画について
 - 2) 委員会の位置付け
 - 3) 運営等
 - 会議の進め方について
 - 会議の公開等について
 - 報告書について
 - (2) 武蔵野市の将来像
 - (3) その他

<配布資料>

次第

- 資料1 武蔵野市の将来を考える市民会議 委員名簿
- 資料2 第五期基本構想・長期計画の策定方針について
- 資料3 武蔵野市の将来を考える市民会議設置要綱
- 資料4 武蔵野市の将来を考える市民会議市民委員募集要項
- 資料5 武蔵野市の将来を考える市民会議 スケジュール(案)
- 資料6 武蔵野市の将来を考える市民会議傍聴要領(案)

<参考資料>

- 武蔵野市第四期基本構想・長期計画(平成17年度～26年度)
- 武蔵野市第四期長期計画・調整計画(平成20年度～平成24年度)
- 平成21年版 武蔵野市地域生活環境指標

1. 開会

事務局 ただいまから武蔵野市の将来を考える市民会議を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

2. 委嘱状交付

事務局 武蔵野市長から委嘱状を交付させていただきます。よろしくお願いいたします。

<市長委嘱状交付>

3. 市長挨拶

事務局 続きまして市長の邑上から一言ごあいさつを申し上げます。

市長 改めまして皆さんこんばんは。

第1回の武蔵野市の将来を考える市民会議にご参加いただきましてありがとうございました。

また、市民会議に応募いただき、今、委嘱状を差し上げたところ、快くお引き受けいただきまして本当にありがとうございます。いよいよ武蔵野市も第五期の基本構想・長期計画の策定が、今日からスタートとなります。

武蔵野市の歴史を振り返れば、第一期の基本構想・長期計画が今から39年前にできておりまして、当初から市民による手づくりによる策定をということですとずっと進めてまいりました。いろいろと課題はこの間ありましたけれども、しかし基本的には市民の皆様方の参加のもと、この策定を続けておりますので、第五期におきましても、さらに一層その取り組みを広げていきたいなという思いでございます。

従いまして、今回は特に、まずは公募の市民会議から最初にスタートしようというふうに考えたところでございます。そして、この会にご案内のとおり、当面は3カ月という短期間でございますが、様々なテーマのもと、これからの武蔵野市についてどうあるべきかということを広く皆様方に意見交換をしていただきながら、これを次にスタートいたします策定委員会につなげていきたいなというふうに思っております。この公募委員の10名の皆様方の中から、さらに2名ほど策定委員会にも参加いただいて、その策定委員会を中心に今後は議論をいただきます。さらに市民参加の仕組みを今回様々な仕組みを考えておりまして、市民会議を経て、この後は、任意抽出型だけでなく、無作為抽出型のより多くの皆様方に参加いただくような、そんなワークショップ型の意見交換会も進めていきたいなというふうに思っております。

今差し上げました委嘱状には、3カ月間の任期ではございますけれども、私の希望としましては、その後に展開いたしますワークショップ型のさまざまな会議にも、ぜひ皆様方にも参加をいただけたらありがたいなというふうに思っております。どのような参加の仕方がいいかについてはまだ具体的な考え方がございませんが、ぜひこの3カ月間で、これからの皆様方の関わり方も含めて、さまざまなご提案をいただけたらなというふうに思っております。

さて、これから1年以上かけて第五期の基本構想・長期計画の策定を進めるわけでございますけれども、市というのは、この計画が最も大切な基本的計画であり、これを基に向こう10年間にわたる市政運営をしていくという、極めて大切な計画です。それをぜひご理解いただいた上で、様々な視点で大いにご意見をいただければなというふうに思っています。武蔵野市は今年、市制施行63年でございますが、その前身であります町あるいは村の歴史から始めますと121年というような歴史があるわけでございます。私としてはこれから新しい都市をつくり上げるというよりか、その120年来積み重ねられた様々な

良いことは繋いでいって、そしてこれからの必要なことを皆様方と一緒に大いに議論をして、そこに盛り込めていけたらなというふうに思っています。

ここ30、40年ぐらい、人口としては13万人台でございましたけれども、当然住まう人あるいは年齢構成等はかなり変わってきております。武蔵野市も少子高齢化は進んでおり、今年になりまして高齢化率も20%を超えています。また少子化の傾向も、これもどんどん進んでおり、人口構成が変化する中で、これから先どのような市を目指していくべきかということが大いに課題となっております。幸いにも、財政的には他市に比べますと、数字的には極めて恵まれた状況ではございますけれども、しかし先ほど申し上げましたとおり、市ができてから六十数年ということになりますと、成熟した都市の課題にも直面してございます。つまり早期に下水道・上水道等の整備が終わったということは、裏返しますと、それを新たにリニューアルしていかなければいけないという時期になってございます。現在ではごみ焼却場であるクリーンセンターの建設から25年が過ぎ、新しい焼却場の建設計画が今スタートしているところでございますので、そういう都市の基盤的な整備に向けて、これから踏み出していかなければなりません。一方、財政的には他市に比べ豊かといっても、そのような大きな課題をこれから解決しなければいけないという、そういう使命を抱えてございます。そういうことも踏まえて、これからの財政状況も大いに皆様方の参考にしていただきながら、これからの武蔵野市の姿を皆様方と共に議論していきたいなというふうに思っております。

なかなか短期間で様々なお願いをすることになりますけれども、ぜひ皆様方の積極的なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

以上でございます。

4. 委員自己紹介

事務局 続きまして委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと存じます。資料1に委員名簿がございますので、ご参照ください。

A委員 緑町に住んでおりますAです。武蔵野に引っ越してきてから34年目を迎えて、もう武蔵野のことはよくわかりませんというふうに言えなくなったのがちょっとつらいところなのですが、現在はクリーンセンターの、今、市長からお話がありましたように、建てかえについての会議にかかわっておりますので、またいろんな形で計画や何かについて、武蔵野市の長期の計画についてお役に立てばいいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

B委員 初めまして。私は吉祥寺南町に約1年半住んでおりますBと申します。私は今現在、大学院で公共政策を専攻しております修士の学生であります。先日、市長と市のタウンミーティングに参加させていただいて、それで改めて市民の方々の意見を反映させていく、行政の職員の方々だけでは見切れない部分、そういった面ってたくさんあるんだということをタウンミーティングで実感しまして、そのことを意識しまして、皆さんと協力して積極的に議論させていただきたいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願いたします。

C委員 北町在住のCと申します。よろしくお願いたします。私もAさんと同じように、委嘱状集めというわけではないんですけども、実は並行して裏では子どもクラブの推進協議会のほうの委員もさせていただいてまして、子どもが3人います、学童にも通っている都合上、そちらのほう、学童

協のほうから委員として入れさせていただいていますが、だからといってこっちに応募したわけではないんですけれども、学童絡みでというわけではなくて、武蔵野市にずっと住んでいて実は戸籍を動かしていないくらいで、おみこしのほうも16年くらい吉祥寺で担いでいますので、今後の吉祥寺の10年間というところがかかわらせていただけるのはありがたいと思って応募した次第です。よろしく願いいたします。

D委員 北町一丁目に住んでおりますDと申します。年を84歳でレポートを出したんですけれども、私に回ってくるとは全く予想していなくて、私の役目は、少子高齢化に明らかに向かっていますし、これに対して年寄り頑張れという立場じゃないかと思います。若い方々は年寄りを大事に大事にしてくださいなんですけれども、それをやっていたら若い方はもたないですから、年寄りが頑張れるところは頑張れというのは、年寄りが言っている分には構いませんから、それを努力しようと思う。

それから、少子高齢化というのはマイナスばかりでとらえるんじゃないで、これは世界的な現象で、特に先進国がみんなやられているんですね。ヨーロッパもやられています。これを泣き言を言っていたらだめなので、これをプラスにできる種はあるんじゃないかと。そういうものを老人のおしりをたたきながら、何かアイデアを出したりできたらと。とにかくいろんなことを、かなりお若い方と違って辛口のことを市役所の方に対しても言うかもしれませんけれども、そういう役目の者がいてもいいだろうということでご容赦いただきたいと思います。

E委員 吉祥寺東町に住んでおりますEと申します。私も20年度、21年度と市民協働推進課男女協働参画担当が発行しております、男女協働参画の情報誌「まなこ」の編集長を2年間務めさせていただいた関係で、今、男女協働参画推進市民会議の委員をさせていただいています。

私もずっと市民になって13年、ここで子育てをして、主婦として生活者の視点で市をずっと見てきたんですけれども、やっぱり女性問題まだまだあるなということと、それからまた男性問題もこれからどんどん解決していかなければいけないんじゃないかなという思いで、とても荷が重いと思ったんですけれども、頑張って応募しました。どうぞよろしく願いいたします。

F委員 中町三丁目のFでございます。武蔵野市には約20年余り住んでおりますが、3年前にサラリーマンを退職しまして、今は大学の非常勤講師を務めております。週に一、二回、簡単な仕事をしているわけですが、市とのかかわりでは、過去2期、市の環境フェスタの実行委員、これも自分から応募したんですけれども、環境フェスタの実行委員をする中で、いろんな方々が市のために、これは環境という側面から努力をされているということを私自身が勉強し実感して、そういうことも踏まえて、これからの市のために何かお役に立てればと思って今回応募した次第です。よろしく願いします。

G委員 武蔵野市中町に住んでいますGと申します。実は住んでいるといっても、ことしの4月に引っ越して来たばかりなんです。私は今から25年以上前、大学時代4年間、武蔵野市で生活したことしかないんですが、その後はほとんど海外の生活で、日本でのことは全くそういう経験はないんですが、いろいろな国で生活した、主人の関係でそういうふうになったんですけれども、そのいろいろな町の経験したこと、その間子育てで経験したことなどを、今後、私が老後を考える上でこの町に一生住み続けたいと思うという気持ちから、自分の経験を生かし、何かお役に立つことができるといふふうに思って応募いたしました。ぜひ、知らない部分が多々あると思いますので、いろいろ考えながら前に進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

H委員 中町に在住しておりますHです。よろしくお願ひいたします。私も中町に住んで10年強になるんですけども、民間企業で10年強、それから公的行政機関みたいところで15年強勤務しております。民間のいいところと、それから行政内、官のいい部分というところ、両方ある程度見えてきていの中で、そのいいところ取りといいますか、そういったことができるといいのではないかなということ、ちょっとお役に立てる部分があるのではないのかなと。

それから、私も第三次武蔵野市子どもプランの地域推進協議会の委員を、第一期と第二期と連続して務めさせていただいております。そうした中で、今後武蔵野市が社会として継続、永続していくためには、いわゆる協業と言われる市民と市が全部行政任せではなく、全部自己責任でもなく、手に手を取り合って協働してやらないと、これは社会のメンタリティーの部分でもそうですし、それから先ほど市長がおっしゃられた財政の部分でも、これはどちらにしても無理があるなということで、今後やはり協業というのを進めていかないといけないなということも感じるところがございます。微力ながら何かできることがあったらと思って参加させていただきました。よろしくお願ひいたします。

I委員 吉祥寺南町のIです。夫の仕事の関係で七、八年マニラにありまして、マニラのスラムでもボランティアをしていたんですけども、そのときつくづく思ったのが、スラムの人たちの生活をよくしていくというか、つくっていくのは、やはり住民なんですね、最終的に。例えばNGOが手伝いに行ったり、さまざまなことでサポートが入ったとしても、最後住民が動かなければだめだと。住民の中からリーダーが出て、住民が連帯して動いていって初めて町がよくなるということ、日本に帰って私はするのだと思って帰ってきております。

コミュニティーセンターとかさまざまやっていって、やっぱり市長が市民参加といった場合に、市民の側がきちんと受けなければこれはいけないんだというようなことで、思いは大きいんですけども、実力は伴わないので、足を引っ張るかもしれませんが、よろしくお願ひいたします。

今は平和施策懇談会の委員をやっております。

J委員 西久保に住んでおりますJです。

先ほどDさんが84歳と言われましたけれども、私ども今、愛犬の散歩屋さんをやっております。ほとんどが前期高齢者で、後期高齢者も一人いらっしやいます。私なぜここに出席したかと申しますと、実は私そんなに資金もないものですから、武蔵野商工会議所の会員になりまして、とにかくポスターを張って需要を喚起しようということで、最終的な目的は労働力を喚起すること、需要を喚起することが、結果的には税収をふやすという、私どものプライドは、70になっても80になっても、ちょっとおくれましたけれども、理念がぴんぴん高齢アクティブ85ということで、85歳まで稼ごうと、少しでも稼ごうと。

ボランティアボランティアとよく言われますけれども、私はやはりボランティアも、この前に新聞に載っておりましたように、ソーシャルビジネスというように、やはり稼ぐべきだと思うんです。私どもこの仕事をボランティアで始めたんですけども、続かないんです。結局は1抜け、2抜け、残ったのは前期高齢者だけである。何で残ったんだと聞きますと、やはり生きがいなんですね。負けてたまるかと。84歳まで私ども行けるかどうかわかりませんが、目標としては85歳までとにかく働こうと。人のお世話にならないで働こう。そうすれば、幾ばくも税金が払えるということで、私も前カネボウにありまして、53歳のときに脱サラいたしまして、物すごく苦労しました。一から、ゼロからなくなって、名刺がなくなった人間というのはいかに情けないのかということで、ポスターをぼんぼん張ったんです

けれども、あるとき私の知っている友人が私のポスターをとって電話がかかってきたんですよ。何でこんなJ君、もうけるために掲示板にポスター張るんだと。我々の年齢ですと、もうけるとかそういうことに対して罪悪を感じているんですね。

私はそうではないと言ったんですよ。あなた、大変失礼な言い方ですが、彼は生活保護を受けているんですね。私は税金払っていると、この掲示板だって税金でできているんじゃないかと。町だってお上が云々という時代は、僕たちの年齢の人たちはみんなそうなんですね。市が何とかやってくれる、町が何とかやってくれる、お上が何とか。あなたなんかは違うと思いますけれどもね。僕らの年齢の人はそういう環境で育ったんですよ。だけど、私は会社というルールから飛び出て一人でやっていると、本当に厳しい。だれも助けてくれない。これはお金もうけをしなければ絶対に人は集まってこないということで、何と今70名の方が、ほとんど前期高齢者の方です。ほとんどの方が税金を払っております。驚くことに、その4店の方が年収1,000万円上げているんです。ボランティアから初めて1,000万円やっているんですね。だから、そうしますと武蔵野商工会議所に月に1回研修会やっていますけれども、みんな生き生きしているんですね。要するにお役に立っているということで生き生きしているわけですね。

だから、ぜひひとつ、私もポスターを掲示板に張ってどんどんとられるものですから、何でとるんだと。お役に立とうと思ってとっているのに何でとるんだということで、これはもうそろそろ意識を変えていかないと、絶対に国も町も市も救ってくれないと。我々は我々で生きなければいかんということで、今日これに応募した次第です。

長くなりましたけれども失礼いたします。

事務局 ありがとうございます。

5. 事務局紹介

これから事務局の紹介に入っていくところですが、大変申しわけございません、市長が次の公務が入ってございまして、ここで退席させていただきます。

<市長退席>

事務局 それで、議事の5番でございます。事務局紹介ということでございますので、私どもこちらに座っている人間の紹介をさせていただきます。

事務局（企画政策室長） 皆さんこんばんは。企画政策室長の小森と申します。室ですが、単位は部、普通でいう企画部というようなところでございます。その中に企画調整課がございまして、この長期計画を担当しております。その企画政策室長の小森と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（企画調整課長） 企画調整課長の郡でございます。よろしくお願いいたします。

事務局（政策担当課長） 企画調整課政策担当課長の福島と申します。企画調整課の一部の業務を分任させて担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（企画調整課課長補佐） 企画調整課課長補佐の齋藤尚志と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（企画調整課） 皆様こんばんは。同じく企画調整課の齋藤綾治と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（企画調整課） 同じく企画調整課の澤野と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（企画調整課） 企画調整課の吉村と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（企画調整課） 企画調整課の吉崎と申します。よろしくお願いいたします。

事務局 室長及び企画調整課としましては、以上でございますが、ちょっと語感、それから齋藤が2人おりますので、わかりづらいところがあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。また、事務局ではありませんが、他の課の職員も来ておりますので、そこだけご紹介させていただきたいと思えます。

市職員（企画政策室市民協働推進課長） 企画政策室市民協働推進課長の森安と申します。コミュニティですとか市民協働を担当しております。よろしくお願いいたします。

市職員（市民協働推進課コミュニティ係長） 同じく市民協働推進課コミュニティ推進係長の江波戸と申します。よろしくお願いいたします。

事務局 あわせましてよろしくお願いいたします。

それから、名簿を次回用意いたします。事務局の名前がちょっとややこしいので、印刷したものを次回までに用意させていただきます。すみませんでした。

6. 議事

(1)趣旨等

1)第五期基本構想・長期計画について

事務局 次が議事でございます。まず趣旨等のご説明をさせていただきたいと思えます。余り私のほうで話しても思えますので、先ほど市長のごあいさつにもございましたので、簡潔にご説明をさせていただきたいと思えます。

資料4（武蔵野市の将来を考える市民会議市民委員募集要項）をご参照下さい。

武蔵野市第五期基本構想・長期計画の策定に当たり武蔵野市の将来を考える市民会議の市民委員を募集し、また、市民委員会を今日設置させていただきました。武蔵野市では昭和46年から第一期基本構想・長期計画を策定しまして、最初は3年だったんですが、その後4年ごとに見直しを行ってきております。

この基本構想・長期計画は、1ページの図がございますが、各分野に定める個別計画、例えば福祉だとか子どもだとかまちづくりですとか、本当に市内で言えばおそらく50ぐらいの計画があるかと思えますが、これがこの基本構想・長期計画に収束されていくという体系をとっております。こういう意味で、市の進むべき方向性を示す最も重要な計画というふうに思っております。

特に基本構想につきましては、この基本構想をもとに計画的に自治体が行政を進めていくものとして、現在は地方自治法に位置づけられた計画になってございます。それを自治体だけでなく、市民の皆さんと自治を進めていくんだという位置づけになってございます。

今回、第五期基本構想・長期計画の中身としまして、基本構想と長期計画に分かれています。図にありますように、基本構想につきましては市政運営の将来像、優先すべき施策、基本的な理念を示すものとなっております。それから、長期計画につきましては、基本構想に基づき財政見通しのもと、個別計画との整合性を図った上で、計画期間内に優先して実施すべき具体的な施策を示すというふうになってございます。第五期基本構想・長期計画を、2年間かけて市民の皆様と策定していくんだというところでございます。

それから、ちょっと参考としてごらんになっていただければと思いますが、皆様の机の上に第四期基本構想・長期計画の冊子を配布させていただいております。これを若干ご説明させていただきたいと思いますが、中身は今申しました基本構想の部分と長期計画の部分がございます。

10ページからが現在の基本構想の内容でございます。「都市の窓を開こう」、「新しい家族を育てよう」、「持続可能な社会をつくろう」という、目標を掲げております。この目標自体は今も生きておりますので、これに則って私も、それから各分野での計画を立てて、皆様と一緒に市政運営をやっているというところでございます。

14ページから、「1章 第四期基本構想・長期計画の前提」について記載されてございます。21ページから、「第2章 まちづくりの目標、圏域ごとのまちづくり」の内容となります。まちづくりの目標ですとか、圏域ごとのまちづくりというものが10年間の構想として示されております。今度は30ページでございます。これも基本構想の部分でございますが、「第3章 施策の大綱」といたしまして5つの分野について、それぞれこういう方向で行くんだということが、示されてございます。

これから次、ページは振っていませんが40ページから、「長期計画」について記載しております。長期計画には、これから10年間、市が一体具体的に何をやっていくのかということが記載されています。44ページから、「第1章 まちづくりの現状と課題、新たな視点」が、記載されています。54ページには、「第2章 施策の体系」として、まず優先的施策を記載し、56ページからは、5つの分野について、分野ごとにどういうことをやっていくのかというのが書いてございます。

次の56ページ「健康・福祉」という分野、次に「子ども・教育」、「緑・環境・市民生活」、「都市基盤」、「行財政」という5つの分野に分けて、記載しています。これが基本構想・長期計画でございまして、ただ、今回はどのようなものになるかというのは、策定委員会のほうでご議論いただかないとわかりませんが、おおよそこういうものを今回もつくっていくんだということでご参照いただければと思っております。

これが第四期基本構想・長期計画でございますが、これを新たな視点で見直していく作業がこれからの中心の課題になっていくんだということでございます。

それから、皆様のお手元に「地域生活環境指標」という冊子を配布してございます。武蔵野市では昭和48年からこういうデータ集というのをつくっております。最近どの自治体もいろいろつくようになってきているとは思いますが、基本的には基本構想・長期計画をつくる前に、必ずこのように武蔵野市の今の状況を整理して公開しております。これは昭和48年から4年ごとにつくっております。これをすべて公開しております。武蔵野市が今どういうふうになっている、どういうふうに変ってきていることを整理してございますので、これもぜひ皆様のご議論の中でご参照いただき、またご活用いただければと思っております。よろしく願いいたします。

基本構想・長期計画をつくっていく中で、今回は市民参加ということを中心に据えていきたいなと思ってございます。資料2（「第五期基本構想・長期計画の策定方針」）をご参照下さい。

第五期基本構想・長期計画の策定方針についてでございますが、これが今回の第五期基本構想・長期計画の策定の基本的な考え方ということでございます。これは議会のほうにもお示しさせていただいております。真ん中に「記」とございまして、1、基本的な考え方とございます。平成24年度を初年度としてと書いてございますが、これは今まで武蔵野市がずっと昭和46年からやってきた方式を、基本的には則ってやっていきますということが書いてございます。

それから、ちょっと飛びまして4つ目の提案でございますが、各分野において市民参加等で策定された個別計画との整合性を図りながら策定を行うと記載してございまして、先ほども若干触れました、各分野でおそらく50ぐらいの、今、生きている計画がございます。そのそれぞれの計画につきまして、専門の方々また市民の方々に入っただいて策定した計画でございますので、こういう計画も大事にしていく必要があるんだろうというふうに思っております。これが基本的な考え方にも据えられているというところです。

それから、次の点でございますが、これまでと同様ということ、長期計画は全施策を網羅したものではありません、分野を超えた総合的な視点により策定を行いますと書いてございます。今回の第五期基本構想・長期計画の議論も、先ほど申しました各個別計画のような個別具体的な議論ではなくて、もっとそれを全部飛び越えて、市として一体どうなるんだという大きな視点で策定していくものだろうということでございます。

それから、次でございますが、1番の最後の点でございますが、策定方法につきましては、第一期基本構想・長期計画と申しますのは、先ほど申しております昭和46年から市が一貫して踏襲してきました武蔵野市方式と呼んでおりますが、市民参加、議員参加、職員参加で策定する方式も継承していくということでございます。また、市民の社会参加に関する意識の広がり等を考慮し、多様で広範な市民の参加をいただきたいというふうに書いてございます。

また、市民参加について、例えば策定委員会でありますとか市民会議ということで、このページの裏面でございますが、この公募市民会議が載っております。10名の公募委員により構成し、5回程度の協議を経て報告書を作成していただくということでございます。それ以外にワークショップでありますとか、シンポジウム、それから関係団体市民会議等々ございまして、なるべく多くの市民の皆様にご意見をいただきながら策定をしていきたいというふうに考えてございます。

それから、ちょっと小さくて見づらくて申しわけございません。次のページに別添資料として、どういうふうな流れで策定をしていくかというのが書いてございます。見づらくて申しわけございませんが、縦に時系列になっております。この表の一番左側をごらんになっていただきますと、平成22年度、それから23年度と分かれておりまして、縦の列としまして策定委員会、それから市民会議、ワークショップ等になってございます。

策定委員会でございますが、これはまだ立ち上がっていませんで、今年の夏、できれば8月中ぐらいには策定委員会は立ち上げたいなと思っております。

それから、市民会議としまして、今申しました関係団体の市民会議ですとか、圏域別市民会議、パブリックコメント等が縦の2列目に書いてございます。3列目のワークショップ等というところに、この公募市民会議、それからさらにはワークショップ、シンポジウムとなっておりますが、実はこの第五期基本構想・長期計画の策定の皮切りに、この委員会が位置付けられてございまして、7月26日、本日から市民の皆様との策定が始まったという位置付けでございます。

長くなりましたが、第五期基本構想・長期計画につきましては、このように今後策定していくということで、このご説明にかえさせていただきたいと思っております。

2)委員会の位置付け

事務局 それから、委員会の位置付けでございますが、今ご説明申し上げました、本会議は第五期基本構想・長期計画の策定におけるさまざまな市民参加の一環として実施いたします。今回のこの会議につきましては、先ほど市長からごあいさつさせていただきましたように、設置者は市長でございます。皆様のご議論の結果は市長に報告していただき、それをまた策定委員会にも出させていただきます、策定委員会のご議論でも、この会議の議論の結果につきまして、ご議論をまたいただくという位置付けでございます。

それから、この会議でございますが、6月15日から市民委員の公募を開始させていただきまして、締切である7月9日までの間で20名の方の公募がございました。皆様にも作文を出していただきましたし、あと地域、それから年齢、それから性別というような、いろいろな見方で私どもは厳正に審査をさせていただいたと思っております。今日の10名の委員の皆様ぜひご議論をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、討議の内容ということでございますが、これは先ほどお示ししました募集要項にも書いてございましたが、10年間を計画期間とする武蔵野市の基本構想・長期計画の策定の一環としまして、武蔵野市の将来像についてご議論いただくために設置をさせていただきました。それから、設置の期間でございますが、7月から9月までの間でございます、月2回程度、計5回の会議となっております。それから、開催時間につきましては、これは募集要項で第1回目は今日ということをご案内いただいておりますが、皆様にとって都合がよろしい時間を後ほどご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、この募集要項にも記載されており、先ほど市長の話からもございました、策定委員会にこの委員会からご参加をいただくという件でございますが、実は策定委員会が、先ほど申しましたようにまだ立ち上がってございません。まだ策定委員会の全容がまだ固まっていないという状況でございますので、申しわけございませんが、策定委員会の設置状況等も踏まえながら、また皆様に改めてご相談させていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

3)運営等

事務局 趣旨等の3)運営等ということでございまして、「会議の進め方について」、「会議の公開等について」、「報告書について」とございます。まず、「会議の進め方について」ご説明いたします。

①会議の進め方について

事務局 通常、こういう委員会をつくりますと、大体座長と申しますか、議長と申しますか、ということを設置するということも多うございますが、基本的に5回という会議でございまして、皆様にいるんなご意見をいただければなと思っております。各回はじめに、私の方で、今日はこのような形でということでご説明をさせていただき、後は委員の皆様で自由に討議をしていただきまして、最終的には事務局のほうである程度まとめて、報告書案という形で皆様にお諮りしまして、報告書にしていきたいと考えております。

議論の中身としまして、5回の会議でございますので、必ず1つの終着点につかなくてはいけないというふうには思ってございません。将来像でございますので、多様な将来像もあろうかと思えます。そういう意味で、皆様のご議論の中で、例えばもう1個だということであれば、それはそれでまとめさせていただきたいと思えますし、いろんな観点があるということであれば、それはそれで各論併記という形でもいいのかなと私どもは思ってございます。それをまた、先ほどのように策定委員会のほうにもお出しいたしまして、策定委員会でもご議論いただければというふうに思ってございます。

このように、私のほうで各回冒頭進行させていただきまして、あとは皆様にご議論いただければなと考えてございます。

それから、資料5（「武蔵野市の将来を考える市民会議 スケジュール案」）をご参照下さい。今申しましたスケジュール案でございますが、5回ほどの委員会でございます。本日が第1回でございます。あと8月、9月の2カ月の中であと4回ご議論いただければと思っております。このようなイメージでスケジュール案というものをご提示させていただいております。日程等につきましては、また最後に皆様とご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

②会議の公開について

事務局 次に、「会議の公開等について」ですが、これは皆様にお諮りする必要があるため、お諮りさせていただきます。

この会議の運営に当たりまして、会議を公開するか否かという点が1点。それから、傍聴されたいという方がいらっしゃったら傍聴をお認めするかどうかということが2点目でございます。それから3点目としまして、今日は録音させていただいておりますが、議事録を公開するかしないかということがございます。これが3点でございます。

例えば議事録を公開するという場合でも、全文そのまま逐一公開する場合と、議事録の要旨のみを公開する場合とあろうかと思えます。はっきり申しまして、要旨にしますと、事務局の方でこういう要旨だったと作成したものを、どちらにしても委員の皆様にご確認をいただく必要があります。ただ、要旨となりますと、なかなか皆様にとりましては、私はこういうつもりで言ったのではないとか、観点が違うとかということがございます。2カ月の委員会でございますので、私どもとしてはなるべく早く公開をさせていただきたいと思っておりますので、早くということであれば、はっきり言えば全文公開の方が早いということがございます。それを皆様でどのようにご判断するかということ、今日お決めいただければということでございます。

それから、また、議事録を公開する場合に、発言者の方をどうするかという点がございます。発言者の方、各個人の委員のお名前まで出して公開するという場合もありますし、単なる「委員」と、例えば「事務局」「委員」とする場合もございます。その場合は委員の方どなたがご発言されたかわからないということがございますが、この点につきましてもお決めいただきたいということでございます。

私どもとしましては、会議は基本的にこういうご時世でございますので、公開であり、傍聴されたいという方がいらっしゃったら、これも傍聴はお認めするんだろうと考えています。これは事務局側の考えでございます。それから議事録につきましては、時間を考えますと全文公開のほうが良いということがございますが、ただ全文公開としましては、皆様に確認をいただく必要がございます。誤字、それと意図が違うということはお訂正いただく必要があると思っておりますので、基本全文公開で、委員さんの名前につきましては個人名ではなくて「委員」、ABCでもいいかと思えますが、ABCもつけない「委員」でも結構だと思います。「委員」の方がいいのかなというふうに思うんですが、まず、この点につ

きましていかがでございますでしょうか。

今、事務局案として申しましたとおり、よろしければそのようにさせていただければと思います。

F委員 これは全文、逐一発言の言葉、速記とっているわけですか。

事務局 速記を突は頼んでおります。今日はちょっと現場に来られないのですが、速記は全部。逐一必ず、おつくりいたします。ただ、公開をどうするかということでございます。

A委員 公開についてなんですけれども、例えばホームページ上も含めて公開ということになりますか。ほかの委員会なんかほとんどホームページ上でもうあれですよ、ただ委員の名前だけは伏せてあって、「委員」というふうにして公開されているので、それに同じようにしても構わないと私は思います。

事務局 いかがでございますでしょうか。

H委員 私も事務局案で全然異論はないんですけれども、1つ確認だけなんです、議事録を公開するときに発言者のところで「委員」とだけやっていくと、話の流れがなかなか読みにくいなと、その見る市民から見ると。ある日の会議については委員Aの場合は常に委員Aが委員Aの人で、Bの人はBの人というほうが、何か市民としては見たときにわかりやすいのかなという気がいたします。

事務局 今ご意見ありましたように「委員」とだけ記載すると、確かに脈絡がちょっと見えなくなってくるということもございますので、委員さんにつきましてはA B C Dというアルファベットを振らせていただきまして、それも毎回同じ方だと大体わかってきますので、それもランダムにさせていただきまして公開という案でいかがでございますでしょうか。

I委員 名前を公開する、例えば「武蔵野太郎」とか、そういったあれで出すような例は少ないのですか。全くないことはないように思うんですけれども。

事務局（企画政策室長） ほとんど「委員」で出しております。専門家などはちょっと違うと思いますけれども、公募委員だけの会議では、ほとんど「委員」とだけ記載しています。やはり公開した後の問題ではなくて、この公開されるということでやはり発言、そうではなければいけないんでしょうけれども、やはり人間ですので、ある程度自由闊達なご意見をいただきたいということで、そのようにする例が多いです。

I委員 私たちのところに文章のチェックということで回ってくるところまでは名前が入っていて、公開のところで今おっしゃったようにランダムにA、Bとか、そういうのを重ねていくんですね。

事務局 そうですね。必ず皆様にご自分の発言でいいか、これでいいかどうかというのをご確認いただく必要があると思っております。それは必ずさせていただきたいと思います。

C委員 基本的に私も事務局案でいいんですが、傍聴の人数というのはどのぐらいで想定されていますかというのがお聞きしたかったんですね。

事務局 実は傍聴につきましては、資料6（「武蔵野市の将来を考える市民会議傍聴要領（案）」）をご覧ください。これは事務局案でございますが、傍聴要領というものを作成してみました。目的、それから区分とございますが、一般席、それから車いすの方、それから場合によっては報道の方ということも考えられますのでとっております。ただ、物理的な大きさによるところもございますので、例えばこの会議室で傍聴者が30人超えてしまうと入りきれないと思いますが、なるべく傍聴の方がいらっしゃったら、ぜひご参加いただいとしますので、なるべく傍聴席も多く設けたいなと思います。

C委員 その際、資料というのは。

事務局 資料も同じ資料をご用意いたしたいと思います。

C委員 であれば、よろしくをお願いします。

B委員 1つ質問があるんですけども、第四期の長期計画の調整計画というのは、市役所で現時点で会議録とか見られると思うんですが、それは調整計画というのはホームページとかには掲載はしなかったんですか。

事務局 しています。

B委員 していましたが。今もそれは見られますか。

事務局 見られます。私どものホームページに策定の過程も載っておりますので、ぜひご参照いただければと思います。

B委員 その記録も現物だけじゃなくて、ホームページで、より見られるようにしないと、市民参加が難しいと思いますので。

事務局 そういふつもりでありますので、ぜひご参照いただければと思います。

I委員 傍聴者によくアンケートというか、書いてもらうことがありますが、それはお考えになっていられますか。

事務局 短い期間の会議でございますので、傍聴の方にご発言いただくことはなかなか難しいと思います。ぜひ来てくださって方のご意見、また感想等も書いていただければと思いますのでご用意したいと思います。

では、よろしいでしょうか。基本的に事務局案に今いただきましたご意見を加味しまして、会議の公開とさせていただきたいと思います。

③報告書について

事務局 それから、「報告書について」は、先ほど若干触れましたように、いろんなご意見が収束できればそれはそれで一番いいかと思いますが、5回の会議でどこか1点に着地するというのはなかなか難しいところもあると思いますので、収束しない場合は各論併記という形のまとめ方をさせていただければと思っております。基本的には事務局のほうで皆様のご議論をとらせていただきまして、報告書案という形でまとめて皆様にお諮りして、皆様のご了承の上で、報告書にさせていただきたいなというふうに思っております。

最終的には、この委員会は、市長が設置した委員会でございますので、市長に対して報告をしていただく場も設置をさせていただきたいなというふうに思っております。

I委員 最後のところの市長とお話をする機会があるということですね。

事務局 はい。ぜひそれは設けさせていただきたいと思います。

A委員 各論併記ということのようなんですけれども、当然それは対立的な内容になっても各論併記ですね。

事務局 そうです。

B委員 第5回で報告書案について議論が書いてありますけれども、市民会議が第5回で終わった後にしか報告書案というものを確認できないということですよ。

事務局 第5回で事務局案をお示しさせていただきたいと思っております。できればその前にもお送りさせていただいて、ご確認いただければ一番いいんですが、ちょっと何分にもスケジュールが相当タイトでございますので、私どもできれば頑張りたいなと思っておりますが、基本的には第5回でご議論いただきまして、そこで直させていただきまして、また皆様にご確認いただいて了承をいただきましたら、それを報告書にさせていただきたいというふうに思います。

E委員 ちょっと戻りますけれども、議事録の公開はどれぐらいの日程でこちらに戻していただいて、チェックにどれぐらいいただけるというのは。

事務局 今テープでとって速記者にお送りして、文章を起こしていただいてというふうになります。

ちょっとすみません、今、私の口から何日でとわからないんですが、先ほど来、申していますように、期間が短いものでございますので、なるべく早く公開をさせていただきたいと思っておりますので、なるべく早く皆様にはお送りさせていただきたいと思っております。

E委員 私たちも即座にチェックをして即座にお答えするということですか。

事務局 それもちょっと厳しいと思いますが、なるべく早くご確認いただければと思います。

できれば、アドレスがおありの方はメールでなるべく早くお送りさせていただきます。

すみません、私が長々ご説明で申しわけございませんでした。また後で何かございましたら、ぜひ事務局にお尋ねください。よろしく願いいたします。

それから、次の議事に入らせていただきたいと思います。

(2) 武蔵野市の将来像

事務局 (2) 武蔵野市の将来像ということでございまして、ここからは委員の皆様にご意見、ご議論いただきたいなと思っております。今日2時間の予定の会議でございまして、今もう1時間経過しております。あとの1時間で、まず皆様に作文を出していただきましたが、皆様がお考えになっていらっしゃる武蔵野市の将来につきまして、1人5分程度で、ご発表いただきまして、今日のご意見をまとめるということではなくて、皆様のご意見を皆様もお聞きになっていただきまして、次回までに事務局である程度収束して、このような論点ではないでしょうかということをお示しさせていただきたいなと思っております。

今日は第1回でございまして、余り根を詰めた議論ということではなくて、まず皆様のご自由なお考えを述べていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

Ｊ委員 16日に出したものを忘れちゃったんですね。

まず、私も武蔵野市にいて、もう30年近く住んでいるんですけども、多分税収の何割かは横河電機かすかいらーくあたりだと思えます。その辺の税収が減ってくると……これから多分減ってくると思います。だから、最終的には一人一人の商い額が税収になるわけですから、吉祥寺と三鷹と武蔵境の商店街の競争が原点になろうかと思えます。僕がそこの社長だったらそうします。それが一つと、その競争の方法はいっぱいあるんですけども、それを語ると相当時間がかかりますので。

もう一つは、大学生を僕は活用すべきだと思います。私は今、日本獣医大学の科目履修生で8年目ですけれども、みんな寝ていますよね。私だけです、聞いているのは。みんな寝ていますから。私はあそこの講師(非常勤)になりまして、そこで2回やってどえらい怒ってやったら、やめてくださいと言われました。根本的に間違っていますよ、学生が。先生が悪いんですね。甘んじて、昔から言えば二流、三流のレベルの先生だと、私は思います。

学生たちとお話ししていると、学生たちに責任があるんじゃない、やはりルールがみんな、私なんかものどが渴きますから飲んでいますが、こんなもの飲めなかったですよ。それで飯も食べているし、だれも聞いていないですよ。だから、私が2回やったときには、全員聞いていましたよ。出ていけと言いましたからね。冗談じゃない、こっちだって散歩屋の間に来ているんですからとんでもないと。

私が感じましたのは、日本獣医大学と武蔵野大学、亜細亜大学、成蹊大学と、要するに学生の本分というのは勉強することではないと僕は思っているんですよ、自分でも。今、かなり有名な全部アメリカで一番の所得を上げている人が、何ていう方ですかね、マイクロソフトのオーナーや、孫さんでも何でも、あの人たち学生時代から働いていますよ。だから、学生時代から要するに何を学ぶか。私はやっぱり就職する、私個人の考え方は、就職するための予備校みたいなものなんですよ。だから学生たちに働かせて、要するに労働させるんですよ。労働させるというのは格好悪いですから、例えば防犯の自衛団をさせて、私も小さいときにはやりましたね、火の用心、火の用心で拍子木を持って、夜中歩きましたよね。私はそう記憶していますけれども、火の用心、火の用心という町の人一生懸命とんとんと

ん持って、要するに気をつけるということですよ。そういう集団をつくって、それをビジネスにしたと。1つの例ですよ。

要するに、学生に、学生たちは多分365日の間に二百何間位日休みなんですから。それで、とにかくあの人たちは働きたくてしょうがないわけですから。だから、武蔵野市でそれを労働力に変えることを工夫するというので、今あれには書いたつもりなんですけれども、それは何をしたらいいとか忘れちゃったんですよ。で、お祭りとかそういうものに参加させて、労働させて、分配すると。そうすると、稼げばそれだけの、何%か税金納めなければいけないわけですから、それが武蔵野市の収入になると。つまり、大学生をもう少し活力、利用すると。利用するという言い方はおかしいですね。

それから、2番目には、定年退職者ですね。私は西久保に住んでいますけれども、私の隣のおじさん、全部65歳以上でぶらぶらぶらぶら毎日何をやっているのか。働いていたいんだけど、私もそうでしたけれども、その人たちも働けば収入があって、そこからまた暇をつぶす、私は暇が一番罪悪だと思っていますので、何でもいいですから収入を得るようなことをやれば、それを市であっせんしてね。あると思うんです、ごみ拾いとか。私は毎日3時に起きているんですよ。それで7時に寝ているんですよ。もう今は寝ているんですよ。

事務局 すみません。

J委員 それは5回ぐらいだったら出ます。それはもう間違いなく。

それで、4時ごろずっと井の頭通りを通ると、必ずおじさんがいるんですよ。灰皿を拾っているおじさん。知りませんか。そういう人を市で表彰しなければいけないですよ。私つくづくそう思う。武蔵野市長にそれを言ったんですよ、前ね。

土屋さんが市長で、話が前ですけど、僕は少年野球のコーチをやっています、土屋さんが私の前のコーチで、土屋さんに何回も言ったんですよ。有名人なんか表彰しないで、毎日毎日たばこを拾っている人たちを表彰すれば、その人たちもまたやるじゃないですか。あの人たちはただでやりますよ。だからあれを、例えば最近でもやっていますよね。2人、男性と女性がこんなプラカード持って拾っていますよね。あれただでやっているんですか。あれをビジネスにすればいいわけですよ。

そうすると、ビジネスにすると、あの人たちがもっともっと収入をふやそうと思ってやっていきますので、例えば私が言いたいのは、65歳以上の定年退職した後に、私は犬が好きですから、犬屋になろうとは思っていませんでしたけれども、愛犬のお散歩屋という仕事は今16年目ですけどね。孫さんに言わせれば、30年企業が続くというのは0.02%だそうですね。私は今16年ですから、続けるのは大変なんですよ。お客が減っていくんですよ。だから、それなのにかかわらず市と国はつぶれないということは、いかに怠慢かということだと僕は思いますよ。

だから、それと同じように、我々はもう考えているんですよ。16年目ですから、あと14年継続するにはどうしたらいいかということは、もう違う形で考えるしかないわけですね。私が言いたいのは、65歳以上の人たちをもっと働ける環境を、市でみんなで考えてやるべきじゃないかと。

もう一つは、今、私の近く西久保一丁目あたりは、私もワンちゃんをよく頼まれるんですけど、80歳のおばあちゃんが1人で住んでいるわけですよ。部屋が大きくてあいているんですよ。実は私夫婦で、Jさん、不安だからせひうちへ住んでくれというわけですよ。私そんなことしません、住まない、私は私で嫌だからね、そんなことは。だけれども、学生たちは、成蹊だって学生がごろごろいるわけですから。あの子どもたちがおばちゃんたちの面倒を見てくれないかと。そのかわりアパートを5万円のところ

るを3万円にしてあげると、一緒に住めば学生も安くなるし、おばあちゃんも安全のために助かるわけじゃないですか。ということが一つ。

もう一つは、子どもの育児、保育園・保育所が足りない足りないと言うけれども、暇なおばあちゃんがいっぱいいるわけですから、一丁目あたりは、暇でしょうがないんですよ。ぐるぐるぐるぐる話して、私、散歩していると、つかまったらお話しして、もうやめてくれと。私はこの犬を連れて帰らなければいけないんだからというぐらいに、おばあちゃんたちは暇でしょうがないわけですよ。

だから、そういう人たちが2歳、3歳児をそこに連れていって、僕たち小さいときは全部そうでしたよ。幼稚園なんかなかったんだから。そのおばあちゃんのところ、おじいちゃんのうちに預けて、そういう施設をつくってしまう。そうするとおばあちゃんの収入も上がる。働く若いお母さんたちも助かるというようなことをやっていけば、私が言いたいのは、武蔵野市は多分、今は財政状況がいいとかどうのこうの言っていますけれども、必ずぶつかるところはそこなんです。だから、働ける労働需要をふやすべきだと思います。それを徹底して議論して、ということはこの前書いたつもりなんですけれども。

以上です。長くなりましたけれども。

I委員 私も一生懸命本気で書いたんですけども、書いて出しちゃった後は、多分採用されないと思ったのもう忘れちゃった。で、うかつなことに今日持ってこなかったんです。うそは言いませんけれども、次のときにまた言い足したくなるような気がするんですけどもね。

1つ、やっぱり私がこの町で生まれて育って、転勤で出入りはしましたけれども、今までおりましたので、最後親も看取っておりますので、やっぱりこの町が子どもの声が聞こえるような、子どもが育つような町。その前提は、私にしてみれば、やっぱり緑とか自然とかということと、人間との関係ということで、そういった町にしたい。私は吉祥寺南町なので、割かし私からすると緑の多い町なんですけれども、もっとそうしたいという気持ちがあります。

それから、さっきちょっと話したことなんですけれども、町をつくっていくのはやっぱりそこに住んでいる市民なり住民などで、それが住民だけでつくっていくわけではなくて、行政と市民との、今はやりの言葉で言えば協働、両方が一緒に力を出し合いながらやっていくことだと思うんです。その大前提は、やっぱり市民も行政の職員もレベルアップするということだと思うんです。市民で言うと、自立した市民というか、自分の考えを持って自分で行動できるような市民がふえるということで、例えば吉祥寺南町はレベルアップするしといったふうに考えておまして、今の私で言うと、やっぱりそれは1つのコミセンというのがそういった場になり得る可能性があると思っています。

この町の場合、いわゆる社会教育みたいな、行政が直接携わってやるような協働の教育とか学習の場というのを、ちょっと変えてしまった町なので、その中でどうすれば市民が力をつけていくかということを考えていきたいです。

それから、職員のほうで言うと、余り具体的な話になるとかえってまずいということがあるんですけども、やっぱり専門職が私は要ると思っているんですね。ずっと最後まで1つのところにいるということではなくて、その人の適性だとか希望だとかいうことの中で、例えば具体的に言えば、福祉だとか図書館なんていうのは、ある程度そこにある年限いるような職員がいることで、その仕事もレベルアップするし、そういった意味で行政の力のレベルアップといったようなことも考えていく必要あるんじゃないかと思っています。今みたいに職員の数をなるべく減らしていこうという中で、そう単純な話ではないんですけども、この辺の人の問題を本気で考えないと、やっぱり町はよくなっていかないと思っ

ています。

あとは、私で言うと、いろいろなことを言っても最後は平和であることで人間の生活というのは持続できるし、豊かになるということがあるので、この武蔵野市みたいなこういった一地方自治体がどういう形で平和の発信をできるか。それは市民的にも、あるいは外に対してもなんですけども、そのことも考えたいと思っています。

ただ、全体として言うと、私は当たり前に暮らせるような町、余り日本一とか特別でなくていいから、当たり前のことが普通に保障されているような町が一番持続可能だし、住民が幸せになるのではないかと考えているので、その辺のことをもっと皆様と話していく中で、私の夢がどんな方向に行くかというのはまだ未定です。

とりあえずこれくらいで、また次回、何か言いたくなるかもしれません。

H委員 私は作文を一応プリントアウトしてきたんですけども、そこに必ずしもこだわらずに、今ちょうどJ委員からもI委員からも非常にいい話があって、私の考えていることともかなり近い部分が非常に多かったものですから、その辺も含めてお話しさせていただければなと思うのが、1つはやはり武蔵野市、少子高齢化とかいろいろ将来の不安みたいなところがある中で、やはり明るさとか希望を持てる町にしてほしいなど。それは何かちょっと、ナンバーワンである必要はないということもI委員もおっしゃったんですけども、やっぱり武蔵野市のここがナンバーワンなんだとか、ここがやはり日本で誇れるものだというのがあることによって、市民の気持ちとか心持ちが非常に前向きになっていく部分というのは多分あるのかなと思います。今のままだと、日本平均だと非常に暗い状況になってしまうので、そこは何かいい部分もあってもいいのかなというのが、ちょっとすみません、思うところあります。

それで、2つ目の話として、もし世界が100人の村だったらみたいな話があると思うんですけども、武蔵野市の将来なり、武蔵野市でいろんな協働みたいなことを考えていったときに、仮に武蔵野市が周りから隔絶された、武蔵野市だけで独立している地域だったとしたらどうするのかと考えると、先ほどJ委員なんかおっしゃったような、高齢者の方にしても、あるいはみんなで何かいろいろ協力し合って、助け合ってやっていこうという意識に本来なっていくんだと思うんですよ。そうでないと村としても社会としても存続できない。そういう意識で、学生さんを含めてなんですけども、いかにみんなが協力していくか、人と人との関係がつかれていくかということが、何かあるといいなというふうに思っています。

それで、ちょっと違う観点で、3つ目の話としては、先ほども自己紹介で言いました民間と公的な部分というところで、公的な部分の弱点としては、どうしても単年度予算で目の前の課題を解決するところにどうしてもついつい仕事上ではいってしまうと。その中でこういう長期計画を立ててというのは非常に、地方自治法の関係もありますけれども、いいことだと思うんですけども、遺失利益とか遊休地に対して、今すぐキャッシュアウトがないものに対して、物すごく感受性が鈍くなってしまうところが正直あるかと思うんですよ。

例えば、今ある遊休の土地も、あれをリース料を払って借りている土地だと思えば無駄にできないと思うんですよ。そういったところのある意味民間財表みたいな部分とかというところの視点も含めた何らかの形で、武蔵野市の財政なりそういう財政計画みたいなものが、それこそ日本での先駆的な公的な財政のあり方みたいなことを考えるのに、幸い日本でも有数の、今のところは財政状況にある中で、それこそ杉並区みたいに市民税を将来安くするために基金を積み立てますみたいなことでも何でもいいん

ですけれども、何かそういうことが考えられると非常にいいのかなという気も、1つしております。

最後になってしまうんですけれども、これもI委員のおっしゃっていたこととつながるところなんですけれども、私も子どもプランなんかの委員なんかもやっていると、地域に貢献しようとか、こういうボランティアなんかで、やはり市をよくしていこうと思う人のかなりのパーセンテージの人が、武蔵野市で育って武蔵野市で長く生活していたからという人が多いんですね。もちろん、私みたいに新参者の血も入れていただかないとよくないと思うんですけれども、やはりここで長く育って行って、ここの土地に愛着を持っている人が、武蔵野市は持続可能性なり将来どうやっていこうということについて、かなり真剣に地域貢献していただけないかということを見ると、やはり少子化の問題というのは本当に真剣に取り組まないと、都の平均なんかでも非常にレベルが数値的にも出生率なんか低い中で、単なるベッドタウンというんですか、ということではなくて、武蔵野市の歴史を踏まえた武蔵野市としてのレゾナードルというか、そういうのを維持していけると、本当にいい市としてやっていけるんじゃないかなと思う。そういうことを考えていただけないかと思っています。

G委員 吉祥寺とか武蔵野市と言えば、絶えず雑誌なんかでも住みたい町の上位のほうに出てくる町であり、私自身も、またいつかこちらに戻ってきて住みたいなと思っていた町だったんですね。実際に住み始めてみて、一体本当にどうしてここに住みたかったのか。何に魅力があるのかなと思ってみても、実際わからないんですが、目につくことと言えば、今住んでいるマンション、ここなんですけれども、実際ごみ袋が守られていなかったり、そういう嫌なことばかりが目につき始めて、本当に何が魅力だったかなと思ったことで、これを市政センターで見まして、私自身が作文で書いたことには抽象的な内容として、だれもがあこがれる町、だれもが住みたいなと思える市にしたいということを書きました。

それで、どのようなことでそのようにすればいい、何が大切かということ考えると、それはまだちょっと抽象的なんですが、高い意識を持った市民をつくり上げるということを生意気にも書いてしまったんですが、それはただプライドが高いということではなく、むやみにごみを投げ捨てたりもできないとか、そういう基本的な一般常識といいますか、何て言うのか、ちょっとうまく日本語で言えないんですけれども、やってはいけないことはやらない、そういう基本的なルールを自然に身につけた市民をつくり上げていく市、そうすることによってだれもがあこがれる市にできるのではないかなと、ただ漠然と思ったんですね。

それで、具体的に何が必要かということにたどり着いて、やはり教育ではないかということ。それは何も塾に通わせて勉強を詰め込むことばかりが必要なわけではなく、学校に行くことももちろん大切なんですけれども、それはもちろん市とかいろんなことでそういうハードの面はたくさんやっていけると思うんですが、やはりソフトの面で人間として高い意識を持った人間をつくり上げていくために、いろいろな経験であるとか、そういう文化的なことをもちろんやっていらっしゃるんですけれども、そういった面での充実。今までおっしゃったIさんともかぶってしまうんですけれども、人を育てるということ、人でつくり上げるということに重点を置いて教育を充実したものにしていけばいいのではないかということ、私自身は作文に書いたんです。

まだ、具体的にどのようにすればいいとかというのは、先ほどご説明がありましたように、いろんな項目に分かれているということなので、それは具体的にこれからどのようなことにしていけば、お話しすればいいことだと思いますので、基本的には私の未来像というのはそのような市であるということを書いてということなんです。

F委員 武蔵野市の将来像ということで、私も作文で書いたものをたまたま持っていますが、考え方としては、ちょっと抽象的ですが、世の中全般にそういう流れにあるとは思いますが、物重点から人重点にこれからは移していくべきであろうと。

武蔵野市の、先ほど市長も努力されたし、いろいろ設備がどんどん改良され、新しい設備が整い、あるいは焼却炉を建てかえるとか、そういうさまざまな施設、設備について、それを常にリニューアルすることは当然大事なんですけれども、これまで何十年かかけてやってきた設備を整えるという段階から、つまり物の段階から、次は、あるいはこれから目指すのはやはり人の段階、つまりハードからソフトへ重点を移していく時代ではないかなというふうに思います。これは珍しいことを言っているわけではないんですが、その中で、特にハードからソフトと言え、当然人の問題であり、人を大切にすること、その人を大切にすることは、突き詰めて考えると、既に常にお話にも出ていますが、大事なのは子どもであり、それからもう一つ大事なのは高齢者だと思えます。弱い人たちがやっぱり大事であるという、そういう心、そういう姿勢が市に求められるんじゃないかなと私は思っております。子どもと高齢者を大事にする。

特に将来、高齢者に将来がないというつもりで言うんじゃないんですが、やはり将来は子どもにかかっているのであって、子どもこそ何よりも大事な財産であると思えますし、子どもを大事にする町ならば、きっと日本中の家族があそこの町に住んでみたいと思うようになると思うんです。そういう町でありたい。子どもを大事にする武蔵野市だからこそ、みんながそこで住みたいと思うような、そういう町を目指していただけたらなというふうに思っています。抽象的ですが。

そういう町であり、かつ、ただ子どもを大事にするだけでなく、物から人ということの人という側面にもうちょっと考え直してみると、やはり人の交流ですね。人はただ生活するといっても、孤独に生活するのではなくて、交流が盛んであってこそ本当に生き生きとした町になるであろうから、子どもを大事にし、老人を大事にし、なおかつ交流が盛んになるような政策をお考えいただくことが大事ではないかなというふうに思います。

この作文の一番最後に、私はこういうふうにしたんですが、繰り返しになりますけれども、最後の部分だけ読みますと、市民の交流が盛んで、笑顔の絶えない安全で安心な市民生活を送ることができる町、これが私が考える武蔵野市の将来像であるというふうにまとめました。

以上です。

E委員 私が作文に書いたのは、将来像としては、女性も男性も生き生きと、年齢の制約なく、老いても若きも元気に暮らせる。そういう町を私は将来像にしたいというふうにしたんですが、私の個人的な関心である男女共同参画ということもあるんですけど、今、皆さんのお話に出ていた少子高齢化の一つの解決策にもなるかもしれないと言われているんですけど、やっぱり武蔵野市で、今、合計特殊出生率が非常に低いんですよね。また、3人に1人は65歳以上でしたっけ、今4人に1人がもうすぐ3人に1になると言われている高齢者。高齢者の方が悪いと言っているわけでは全然なくて、ただ元気がもう少し、若者が、いろんな世代が暮らして元気になっていくためには、やっぱり子育てしやすい町である、それから女性が働きやすい町である。そういうふうなところがどんどん力を入れていかなければいけないのではないかなと思います。

武蔵野市では、現在女性の労働力人口が非常に低い。働いていない方がとても多い。翻って言うならば、金持ちだから専業主婦がやっているといるというようなことがあるのかもしれないんですけど、例えばいろんなことで機会があって、講座なんかで知り合った若い主婦だったら、やっぱり働きたいと

思っている人が非常に多い。でもいろんな事情があって、子どもをどうするとか夫はどうするとか、いろんなさまざまな要因があって、でも仕事が今の状況でなかなか見つからないというようなことがありますので、そういう方がもうちょっと社会で活用していけないか、起業支援、再就職の支援をしていけないとか、そういうこともどんどんやっていきたいなと思います。

あと、先ほども言ったんですけれども、高齢者問題ともかかわると思うんですけれども、男性問題というのがすごくあると思うんですね。Jさんがおっしゃったような、高齢者で生き生き働いているばかりだったら、いつまでも働ける方ばかりであればいいですけれども、やっぱり定年後、家でずっと引きこもってしまったとかして、家庭内離婚とか、結構そういう男性問題、熟年離婚もふえていますし、やっぱり男性の意識も変えていかないと、今後はみんなが生き生きと元気に楽しく生きていくためには、そういう男性問題に対しても取り組んでいかなければいけないなというふうに思って、今日はここにやって来たということなんですけれども。

あともう一つ、いろんな市民活動にかかわってきて思うことは、市民協働ということがそんなに簡単なことじゃないなと、すごく実感として思うんです。言葉はとてもきれいだし、市民と行政と一緒に対等なパートナーシップでというふうなこともすごくよく言われますし、ハンドブックなんかも出ているんですけれども、実際、それがどういうふうの実現されるんだろうというのは、とても難しいことだなというのは実感として思っているの、本当に市民参加というのはとても大事なことですけれども、そういうところもしっかりと考えた上での市民協働、協業ということを話し合っていけたらなと思っています。

以上です。

D委員 私は耳が余りよくないので、皆さんの言われたことをまた言うかもしれませんが、私はこの町はいい町だと思って見えています。今の第四次計画もよくなりそうだなと思いながら見えていますので、それを見届けないうちに第五次なんてアイデアは言えるかどうかよくわかりませんが、いいんですけれども。

ただ、私としては、この町に住んでいる方々は経済的にもあるいは教育的にもかなりレベルが高くて、とにかく常に評判がいい町なんですね。それは設備もいいし、水もいいし、あれなんですけれども、これはしかし放っておくと、少子高齢化は、逆に言うとこの町は早く進むと。そうすると自然にしばんでいっちゃいますから、これをどうしたらいいんだと。

まず第一は、さっきあそこもおっしゃったように、年寄りを動かせと。私は、介護に余力を入れ過ぎるなという、これは変な言い方なんですけれども、老人は寝かせたら立てなくなるんですよ。動かしておいたら自分の動ける限り動くという、いくんです。それをばっと介護したらもうおしまいです。宇宙に上がった人が帰ってきたら筋肉が動かないでしょう。私は今、剣道やっているんですよ。週に5回やっていますけれども、これはやっていけば続くんです。やめたらずっと落ちます。もう回復しないんです。

だから、介護の認定をシビアにしたらどうですか。私は言うんですけれども、大自然にいる動物で介護している動物がいますかと。私は、18年生きた犬を飼っていますけれども、それは死ぬときには自分で死に行きますね。目を離したら死にめに入って、それを抱き返して一生懸命長生きさせるんです。これは動物は全部自分で死に行くんですよ。これは食べられなくなったら動物はおしまいです。自分で食べられなかったら。

言い過ぎたらいいんですけれども、当然今のこういう流れですから、大事にさせていただくのは非常にありがたいですけれども、ただ、やっぱり老人を鍛えるほうのことを考えていかないと。

それで、介護の認定というのはやっぱり厳しくやったほうがいいんじゃないですか。私、見ていると、介護保険払っているんだから介護を受けなければ損だという老人がいるんですよ。だから、そういうのは自分でつぶれていくんですね。むしろ、外国なんかは逆にできるだけ動かしてあげるようにするという国があるでしょう。大体、日本のお役所の方は親切ですから、今弱い人は助ける助けると、だから、いろんな保護とか何とかで、今は中国人の生活保護の問題が問題になっているでしょう。大阪で何十人も。あれは弱い人を助けてあげなければいけないと思うから甘くやっているんですね。それはもっと真剣に、窓口が真剣にやるべきだというのは、これは僕の辛口なんですけれどもね。そういうものがかなりありますよ。

だから老人が、ここにも書いたんですけれども、老人を動かせるような工夫をしてあげなさいと。それで、農家が農産物を売るのがに直売所で売るのが一番うれしいんだと。それだったらたくさんありますから、その散歩コースを考えて、ちょっと整備して散歩にいいところをつくって、老人はそこらでも買い物をして家に帰って貢献するという。それもアイデアなんですけれども、そういうものでなるべく動かす工夫。

それから、これには書いたんですけれども、このままだと武蔵野市は産業がなくなりますよ。経済的なそういうものを町が持たなかったら寂れるのは当然ですよ。それを私は少子高齢化を逆手にとって、介護機器を重工業的なのではなくて、今まで、だから日赤なんかでいろんな方々がどういうものが欲しいんだと、どうしたら老人が自分で動けるんだと、そういうアイデアを集めて、一方でそういうのに使ういろいろな専用機器、そういう関係のメーカーがたくさんあるんですよ、要素技術がね。それからNTTだってそういう能力物すごいですよ。

それから、大学があるでしょう。それから隣の県に行ったらスバルがあるし、それからお隣の日本無線。その辺が物すごいそういう工業技術を持っているわけです。

いろいろ介護機器を見ていたら、歩行器というのは例のこれしかないですね。それからつえですね。私はそれを義足のような、義足を機械化するようなことを工夫したら、筋力が5割ぐらいしかなくなって、もうおれだめだから寝るよという、動けないというのがあるでしょうけれども、それを機械であと5割動けるようになったら、その人は歩くかもしれないですね。そうしたら5割の体力を維持するわけですよ。

だから、僕はやたらに甘く認定して、すぐ寝かさないうで、どうやって努力させるかという。それに産業がくっついて、それは夢の話なんですけれども、それが成功したら、これは世界中困っているんですよ、マーケット出てきますよ。

だから、10年も計画期間があるんだから、それに賢い人いっぱいいますから、何か市の賢い方でアレンジしたらどうですかという話を。とにかく、私は老人介護というのははっきり言ってプラスはありません。さっき言ったように、生物は動けなくなったら、自分で食べられなかったら死ぬんです。これは当たり前なんです。介護して寝かした人、これは幸せですか。じっと寝ている人。だから、私は子どもさんのほうに力を入れなさいと、これは絶対ですよ。子どもさんに力を入れてください。

それで、結局、この町は老化していく、財産がある、まあまあ暮らしていると。さっきのようにおばあさんが大きな家に住んでいると。それでずっと消えていくわけです。それでは未来ないですからね。若者をどうやって呼び込めるか、若い人がここにどうやったらたくさん住むか。それをやらなければいけない。それには、今の子どもさんをどううまく育てるサポートをするか。

それから、ここに学校が多いでしょう。いい学校がたくさんあるんですよ。それで、いい学生さんが多いです。だから、そういういい学生のいい雰囲気町だというのをつくって見せたら、親御さんは

あの町で子どもを育てたいというのは出るわけですよ。そういう雰囲気。

私が委員になって、私は孟母三遷、私は吉祥寺に来て33年になりますけれども、来た理由は私の娘が成蹊中学に入ったとき、私は埼玉に住んでいたんですけども、そのときに子どもが浦和の師範附属に入ったんですよ。だけど成蹊を受けさせてみたら、そうしたら娘が断固として師範附属に行かないと。ここの成蹊の緑にのまれたんですね。それでしようがない、孟母三遷で苦労してここに、借金をして移ってきた。

これには学生さんたちがよく育っているよと、それからきちんとしたしつけができていよと、それから服装がいいよとか、それから何かのときの対応のしつけがいいよとか、それは見ていると思いますよ。若い人なんかこんな人と思うのはありますけれども、東京女子大に行っていて中で物を聞いて案内を受けたりすると態度がいいですね。だからそういう方々の町を見た人が、あそこは学生の雰囲気がいいというような人を、今の子どもさんも上手に育っていると、そうなったらあの町で育てたいなと。僕みたいな愚かなやつがふえるんじゃないかと思います。

ですから、子どもさんというか、少年、青年ですね。彼らに1つ言いたいのは、私は補習教育やっていたんですけども、シルバー人材で。彼らは目標を持っていないですね。目標を持たせた子は伸びるんです。それは学校の教育どうなっているかというのが、先生方は社会を知らないんじゃないですかと。先生方が社会をしっかり見て、子どもたちの目標を、与えられたら子どもは変わるんですよ。これは僕の経験、僕は小さいときでもそうですけれども、目標を持った人と持たない人でこんなに変わってくるんですね。

だから、そういうものを含めてこれを皆さん目を光らせて、しつけよくして、そういうふうにしたら、若い家族が入ってくるようにしたらと、それではじいさんはほどほどにして止めます。

〔委員 一応作文を今もう一回見直しして、皆様と比べて随分世俗的な意見をすごく書いたなと、今反省している。結構恥ずかしくなってます。〕

10年間で考えたときに都市計画のほうが重要かなと思っていて、自分の子どもが今3歳と5歳と8歳がいるんですけども、それが10年後たったときに武蔵野市がどうなっていたほうがいいのかとかというのをいろいろ考えていくと、致命的に、まず財源が足りないのかなという気は非常にしていますので、現実的なことばかりで抽象的な意見というか、そういうのもすごく世俗的ですけども、横河電機が多分メインだと思います。あとNTTがメインだと思います。吉祥寺で若干、伊勢丹がなくなっている分、ちょっと税収が落ちているのかなという気もしているんですが、若い企業はいっぱいあるので、例えば横浜市みたいな日産を無理くり、すごいやり方で誘致したような感じで、若い企業を誘致して、かつそこにいる人ごとこっちに移住できるような環境というのをつくれば、人と企業が誘致できればそれはいいのかなと。

自分は今、中央線に乗って都心のほうに通勤しているんですけども、あの通勤は結構苦痛なんですけれどもね。そう思うと、武蔵野市は比較的コンパクトで緑も多いですし、住環境も住みやすいので、やっぱり企業誘致すればそこそこいいところがひっかかってこないのかなというのは、若干気がしています。あわよくば転職できればいいかなと思っていたりもするんですけども、とりあえず中央線の苦痛だけは本当に。というのが1点。

あと、当然都市計画的なところでいうと、武蔵野市3駅あって、三鷹、吉祥寺、武蔵境と、それぞれいい点があると思っています。ただ、吉祥寺が私はメインなんですけれども、北口のロータリーのところがちょっと無駄だったりするのかなと思ってみたり、あと南口のところが微妙に治安が悪かったりす

るようなところは整備できるところがあるといいのかなと。

あと、武蔵境駅も整備されて、駅が高架になって北と南の分断がなくなって、非常に生活しやすくなったと思うんですけども、若干その分、若年層の方々が桜堤地区なんか学童とか保育園も非常にふえている点というのは、やや急激な人口増加のところに対応し切れなかったりするところもあり、また整備する余地があったりするというのは考えていくと、今後10年間の中ではあその部分の整備計画というのは非常に重要になるのかなと思ったりもします。

あと、三鷹のところなんですけれども、総武線の始発で中央特快が停車して、交通の利便が非常にいいと思うんですけども、やっぱりそれに甘んじている部分が非常に多いのかなと。確かに三鷹のこの南口のほうは結構きれいにはなっているんですが、実は武蔵野ってこちら側ですよ。こっちがすごく寂しいかなと思ったりもしつつ、ただここから先に今度は住宅街のほうがすぐ広がっていくという点も考えていくと、難しいところはあるんですけども、こういう大きい箱物ができたり、こういう場所もできたりするというのは非常に重要なんですけれども、そういうところの都市整備というのは今後10年間の中で非常に重要になるのかなと思ったりもして、そういうところの部分のところで非常に現実的な、漠然としたものではなくて、露骨な将来計画みたいになっちゃって非常に発言していて嫌なんですけれども、自分の10年後、今後住んでいくのを考えると、どういうふうに露骨に。

確かに、抽象的に言うと、子どもを育てやすくしてほしいというのはあるんです。ただどうやってとったときに、仕事上突き詰めていくとどうしてもすぐ、じゃどうやったら確保できるのという、すぐそっちに行ってしまうので、そのシフトと考えたときには非常に10年間の中で、都市計画の部分のところがちょっと、どういうふうに言うと、露骨になるのですごい、どうやったら税収が上がって住みやすくなるのかと。お財布に余裕があればいくらでもいろんな生活ができるけれども、先立つものがないと何もできないというのが現実なので、その部分のところが今後の第五期の計画というのは非常に大きいかなと思ったりしています。

以上です。

B委員 私が考える将来像については、この長期計画が10年計画だったことはわきまえているんですけども、将来を語る上ではやっぱり30年、50年とか、次世代のことも考えていかないとけない。そういった前提の上で、私は将来像として何が一番大事かなと思ったのは、やっぱり武蔵野市にかかわる行政職員の方々、市民の方々、そして企業の方々、それぞれの方々が、自分たちのことだって、例えばごみ問題でも自分たちが関係することだ、もしこのまま放っておけば後で何か問題が起こる。次世代に問題が起こるとか、一人一人が自分の問題意識に照らし合わせて主体的にかかわる。それぞれのアクターが、若い人も高齢者もその間の人たちも、それぞれの人たちが主体的になって武蔵野市をよくしよう、そういうふうにそれぞれの方が思えるようなのが、私の武蔵野市の将来像になります。

それはGさんがおっしゃったように、やっぱり市民、私は企業の方々も行政の方々も市民ととらえて、みんなが市民ととらえて、じゃ市民がよくしようという、市民が武蔵野市をみんながよくしていこう、そういった面をそういった全体像で私は将来像をとらえております。

じゃ、それに向けて何が一番大事かと私は考えました。今回この400字という作文の中で、具体的には書くことができなかったんですけども、その柱としては、私はシンク、地球規模で考えて、あと地域で考えて、あとそれを地域と市外で実践することが大事だと考えております。第四期の長期計画、あるいは調整計画のところ、シンクグローバル、アクトローカリー、地球規模で考えて地域で実践するとあったんですよ。私はそのことについてさらに発展することがいいんじゃないかと考えております。

それは、シンク、考えるということを経済規模だけじゃなくて、地域でも考える。つまり地球環境をどう考えるかといったときに、よく最近の学生とかでグローバルなことに問題意識を持っているなど感じる人は、私、少なくありません。グローバルに問題を自分は積極的にかかわっていききたい。だけれども、それを地球問題のことを考えていく上で、地域で具体的にごみをどのように、1人600グラムを削減するかとか、地域で考えることも大事だと思うんですよ。そういった実践に移す前に、それ以前にこういった場、広義な市民参加の場を通したりとかして考えるということが大事だ。地域でも考えるということが大事だろう。

その上で実践する。ローカリーアクトで地域だけで活動するんじゃないで、やっぱり地球環境の問題とかは市内だけで完結する問題じゃないと思うんです。例えばごみ焼却場の問題だったりとか、市の外を越えて連携してくる。あるいは環境省とか省庁といろいろやりとりするとか、やはり市内、アクトローカリー、その地域だけで活動するんじゃないで、それをより地域外の人たちとも協力していく。その発想が私は大事なことでないかと考えております。

私はこういったスタンスをもって、将来像について考えさせていただきたいと思います。

以上で終わります。

A委員 シャベリ始めたら1日でもしゃべっちゃいますけれども、最後になってよかったと思っています。制限時間がありますから。

私の場合は、今まで長期計画をつくるときに、武蔵野市が西部地域、中央地域、東部地域という3つに、すごいこんな大ざっぱな分け方なんてとんでもない話だと私は思っているんです。武蔵野市は13町ありますよね、それぞれ13の町が。やっぱり13の町の特色って結構あると思います。私は緑町に住んでいますので、緑町の町の歴史的なことも町の長老の人からいろいろなお話を聞いたり、何代目かという農家の方からお話を聞いたりするうちに、大変なところに私自身住んでいるなというふうに、最近よく思うようになったんです。

ですから、いいところと、それからもっとよりよくなっていくようなところがどんどんどんどん、みんなの力を合わせてふえていけば非常に住みやすい町になるし、町に対して愛着が出てくるであろうなというふうに思っているし、みんながそういう好奇心を持ちながら自分の町でいかに住むかというのを、さっきからみんなで考えようというふうにおっしゃっていますけれども、それぞれの町の人たちが考えていけば、だんだん13の町が全部よくなっていくような、そんな気がします。

だから、それは実践をしなければいけないので、考えるだけじゃなくて、私は今まで34年間緑町にずっと住んで来て、現場主義、直接何かがあったらそこへ行くと。好奇心の塊ですから何事が起きたのかというのをすぐ見に行くんですけども、そういう考え方が市民も大切だし、それから市役所の職員の人たちも、やっぱり現場主義は大事だと思います。人から電話かかってきて言われたことはこのみにして、そうですかというふうに解決するんじゃないで、そこはどこですかと行ってまず見てどういう状況なのかというのを判断をしなければ、いい施策はできないなというふうに私自身は思っていますので、今後はぜひ第五期の計画を立てるときに、やっぱり現場主義が生かされるような内容にしてほしいなというふうに思います。

それと、都会というのは余計そうなりがちなのかもしれないんですが、人間の関係がだんだん希薄になりますよね。そうすると、人と人とのきずなというのがだんだん薄れていって、隣は何をする人ぞというのが、そういう状態になってしまうんですが、私が住んでいるのは団地なんです。緑町パークタウンという市役所のすぐ隣の団地なんです。そういう隣は何をする人ぞという関係には絶対になりたく

ないというような思いで自治会活動をしているんですけれども、きのうも実は夏祭りをして盆踊りをしたんです。そうしたら、今までなかなか昼間の時間帯には見られないような皆さんの姿、家族ぐるみで小さなお子さんを連れて、若いお父さんとお母さんが一緒に盆踊りを踊るとか、それからちょっと足の不自由な方、車いすに普段は乗っていらっしゃるんですが、その人が立ち上がって踊りをするとか、お年寄りの人たちなんか、小さい子たちに教えてあげながら一緒にやろうという、1つの中心になるような求心力みたいなものができていて、私は本部のテントの下で見ていたんですけれども、こういうのがエネルギーになるのかなというのを改めて感じました。

ですから、これからも大きなお世話と言われながらも、ご近所のいろんなことを、ついつい一言多かったりしながらお世話をしていくことになるかと思いますが、そういう武蔵野にしたいというのが私の願いですし、それから、日本人の昔からのそういう人と人のつながり、それからいろんなそういうことで人のことを思いやるというのは、DNAとしてずっと続いていると思うんです。それを決して途中でふつんにならないように、ずっと長く引き続き継続していければいいかなと思っておりますので、私も前期高齢者というんですか、仲間にちょっと入ったんですけれども、85まで生きられるかどうかわかりませんが、できるだけ長生きをして、今までいろんな形で経験してきたものを若い世代にどんどん伝えていきたいというのが、今の気持ちです。

以上です。

事務局 ありがとうございます。皆さんもありがとうございます。

せっかくのこういう場ですので、何か委員さんの間でここを聞いておきたいとかありましたらどうぞ。いかがでしょうか。

A委員 すみません、さっきGさんのご意見で、ごみのことを何か出し方についてお行儀悪いというようなことをおっしゃっていたんですが、私、実は今のクリーンセンター、ごみの焼却場なんです、中間処理施設なんです、そこが三鷹市から武蔵野のごみは燃やさないよと言われて追い出されて、場所探しから始まって、それにかかわり始めてから、34年間武蔵野に住んでいるんですが、30年近くごみのことにかかわっていて、今ちょうど建てかえのことをしているんですが、一度ぜひクリーンセンター、市役所のすぐ隣のとても便利な場所にありますので、ごらんになっていただくとわかるのではないかと思います。

確かに、私は実はごみの収集の皆さんがどういう出し方をしているかというのを、ごみの焼却場に入れる前、プラットホームという広場があるんですが、そこへパッカー車がばっと開けて中を見たんですけれども、その日は不燃物が何かの収集してきた車だったんですが、不燃物というのはどういう物とどういう物とどういう物というふうに大体便利帳に書いてあるんですが、全然関係ない紙が入っていたり、すごいお行儀悪いですよ、早い話がね。だから、一度あそこを見ると、私なんか自分自身で戒めながらきっちりしないと、このクリーンセンターがだんだん、出し方が悪いためにひどい状態になっていくというのを目の前で見ていますものから、一度ごらんになって、お勧めいたします。余分なことでしたけれども。

H委員 質問をしていいですか。この長期計画の位置づけで、すみません、素人でよくわかっていない部分があるんですが、基本的には市の10年なり5年なりの計画はこの長期計画に基づいてやるということだと思いますし、特に非常に金額の張るものとか重点的なものは、これに書いていないことはやら

ないということなんだとは思いますが、一方で、例えば環境の変化ですとか、あるいは今の国の補助金率から言うともやらないというのがあるとし、突然、国のほうの政策などでこれについては補助金率を2分の1にしますとか、急に何かある意味、市から見ると、コストベネフィット的にこれはやってもいいよねとか、あるいはやりたいよねというような状況になることってあり得ると思うんですけども、そういうときには、長期計画に書いていないからやらないということでは多分ないんだと思うんですが、長期計画に書いていないだけどもやるんだというところを、どういうふうはこの長期計画との間の整合性というか、頭の整理というか、していけばいいのかというのがちょっとよくわからなかったんですが。

事務局（企画政策室長） まず、大きな枠組みとしては10力年で立てるんですが、4年ごとに見直すというのが大きな枠組みとして1つあります。それからもう一つ、小さな枠組みとしては、それぞれの個別計画は、基本的には長期計画の考え方に基づいて策定するんですが、その間の制度変更だとか、今お話のあった補助金なんかで、これはやってもいいだろうというような話があれば、基本的にその個別計画に書き込んだ上で、計画化した上で実施するというのが、もう一つ小さな部分の考え方のローリングをしていくという考え方があります。

しかし、大きな考えとしては、基本計画の考えに反するようなものはやはり基本的にはやらないという前提には立っています。

H委員 そういう意味では、例えば基本構想のところって余り変わらないと思いますし、その基本構想の線に沿ってということが非常整理しやすいんだと思うんですけども、まさに個別計画あるいは調整計画を直してということだとすると、調整計画だと最低、場合によっては4年間は変わっていかないというのだと、ちょっと余りにタイムラグがあり過ぎるかなと思うんですが、個別計画だとそこはもっとかなりクイックに対応できるんですか。

事務局（企画政策室長） もう少し具体的に書き込む段階で、個別計画の段階で計画をするという形です。もっとも、緊急雇用対策などで突然補助金がついた場合などについては、予算の段階で議会に説明をして予算化するというのも当然ございます。

H委員 ここはむしろ長期計画には書いてないだけども、こういう環境の変化の中でこういうふうにやりたいんだということを、個別に議会に諮ってやるという感じですか。

事務局（企画政策室長） はい。当然子ども手当も降ってきますし、それから国が考えている緊急雇用対策などで補助金がつくので、何かやらないかというような補助金も来ますので、それはそのときに議会に諮った上で予算化していくという、イレギュラーな対応は当然生じてまいります。

我々が普段予算化しているときに一番注意していることは、長期計画のどこでその事業は読めるのかということ、必ずこちらの企画サイドから問い直すようになるべくしているわけです。長期計画に書いていないものを勝手に予算化するということをチェックする段階というのは非常に大事だと、我々は思っています。その段階で、これは緊急的なものとしてやむを得ないという判断をして予算をつける。先ほど言ったようにですね。そういう枠組みで計画行政をなるべくうまく回していく工夫をしているところなんです。

H委員 わかりました。ありがとうございます。

C委員 これはどこかで見られればそこを見に行くかするんですけども、この50程度の個別計画があると先ほどご説明いただいたんですが、その50程度の個別計画のリストみたいなものは今後どこかでいただけたりするんですか。

事務局 そうですね。今、市のホームページを見ていただきますと、大体どの計画もホームページに掲載されておりますので、細かいことはそこでごらんになっていただくとしまして、今うちのほうで、この長期計画の策定に当たりまして、各課が持っている計画について、今、それこそリスト化しておりますので、どこかで皆様にもお示しさせていただきたいと思っております。

B委員 第2回から議論のテーマの整理とか行いますけれども、そのテーマというのは大枠としてはどんなものなのかというのが説明がないんですけども、例えば調整計画とかで5分野に分かれて会議とかを行っていましたが、そういった5テーマ、行財政だったり健康福祉だったり、そういった大きなテーマというのは、そういったものを引き継いだものが今回テーマになるような形ですか。

事務局 余り5分野とかというのにこだわらずに議論していきたいなと思っております。今、皆様のご意見をお伺いしても、やはり協働だとかコミュニティーだとか、少子高齢社会だとか、いろんな課題があげられています。本当に、10名の委員の方がいらっしゃるといろんな観点があるのかなと思っております。分野というよりも、これから来る大きな課題って何なのかなというのを、私どものほうで何点か、皆様のご意見を踏まえるところになりますというのをつくってお示しさせていただきたいと思っております。事務局案をたたき台として、こういう議論でいいのかどうかもまたご議論いただきながら、次の議論を進めていきたいなというふうに思います。余り今までの長期計画で分けているジャンルにこだわらないほうがいいのかなとは思っております。

B委員 市民から提案された具体的な……

事務局 そうですね。皆様のご意見をとおります。

E委員 すみません。次の第2回の8月中旬の会議の前にどういうことを話し合うというような、事前に私たちにインフォメーションはいただけるんですか。ある程度そういうことについて調べるなり考えるなりして臨んだほうが、突然言われてもやっぱり困るかなという感じがします。

事務局 おっしゃるとおり。基本は、今日皆様のご発言から幾つかのジャンルに分けて進むだろうと思っておりますので、なるべく早くお示しさせていただきたいと思っております。

いかがでございましょうか。

お約束の時間でございますので、もしもまたありましたら、事務局のほうにお申しつけいただければと思います。

(3)その他

事務局 次第でいきますと、最後のその他のところでございまして、今、ご議論の中でもありましたように、あと4回ご議論させていただきたいと思っております。先ほどお示しました資料5のスケジュール案をごらんになっていただきますと、あと4回ございます。8月、9月で2回ずつと思っておりますので、私ども事務局としましては、できれば毎回毎回いつにしましょうかといってもなかなかと思いますので、定例的にさせていただいたほうがいいのかと思っております。例えばでございますが、第2週と4週の水曜日とか木曜日とかという決め方はいかがでしょうかというのが1点です。もう一点は、時間帯でございます。今日みたいな夜間がいいのか、それとも昼でもということなのか。この2点についてお諮りしたいと思うんですが、いかがでございますでしょうか。

J委員 お任せします。やっぱり一番大事なのは時間なんですよね。9時に終わるんだったらぴしっと終わるようにしてもらわないと、私その後ありますから。じゃ失礼します。

事務局 申しわけございません。後でご連絡申し上げます。

J委員 申しわけない。9時に約束しているから。そのかわり時間を言っていたら絶対にやります。

事務局 すみません。私の不手際で時間を遅くしまして申しわけございません。

次回以降でございますが、お勤めになっていらっしゃる方がいらっしゃいますので、今日のような時間帯で午後7時～9時という時間帯でいかがでございますでしょうか。日程ですが、次回、第2回目は8月12日(木)です。それから3回目は8月25日(水)です。それから、9月に入りまして、4回目は9月17日(金)です。最後でございますが、5回目は9月28日(火)でございます。こういう日程でまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、長い時間ありがとうございました。今日の議事録と次回以降の議題のまとめ案につきまして、なるべく早く送付させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、これで第1回会議を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

(了)